

Mマガジン・サポーター (店舗情報の詳細は「音楽好きな友の会」公式サイトにてご確認ください)

●公共機関

- ・区役所
・会館
・会館
・会館
・郵便局
・郵便局
・郵便局
・郵便局
・放送局

●元住吉西口(ブレイメン通り/井田中ノ町商店街通り)

- ・音楽教室
・花屋
・鉄板焼
・ヘアサロン
・カフェ
・果物
・パン
・コーヒー専門
・イタリア料理
・カイロ、整体
・音楽教室
・コインランドリー
・理容室
・接骨院
・ヘアサロン
・デザイン制作
・カフェ
・時計・貴金属

●元住吉東口(オズ商店街通り)

- ・介護センター
・お茶
・鍼灸院
・介護センター
・古本・CD
・調剤薬局
・飲み喰い処
・イタリア料理
・STEAK
・旅する珈琲屋
・Gステーション

●元住吉近郊

- ・喫茶室
●武蔵小杉近郊
・喫茶店
・喫茶店
・紅茶専門店

●東横線沿線

- ・調剤薬局
・写真
・レストラン&バー
・調剤薬局
・カフェレストラン
・ジャズ喫茶

中原区役所5Fなかはらっぱ 中原区小杉町3-245 Tel.044-744-3113
川崎市国際交流センター 中原区木月祇園町2-2 Tel.044-435-7000
川崎市生涯学習プラザ 中原区今井南町28-41 Tel.044-733-5560
かわさき市民活動センター 中原区新丸子東3-1100-12 Tel.044-430-5566
川崎井田郵便局 中原区井田中ノ町25-1 Tel.044-766-9724
川崎ブレイメン通郵便局 中原区木月1-31-5 Tel.044-455-1800
川崎木月郵便局 中原区木月住吉町11-12 Tel.044-411-9800
(改築中)川崎木月大町郵便局 中原区木月大町11-17 Tel.044-722-3617
かわさきFM 中原区小杉町1-403 武蔵小杉タワープレイスTel.044-712-1791

SouleaveMusic School 中原区木月伊勢町10-1三起ビル302 Tel.044-750-8992
Bianca 中原区木月1-26-19 Tel.044-422-7015
ゆうき亭 中原区木月1-28-16 Tel.044-434-6999
キャメルヘアデザイン 中原区木月1-32-10 中嶋ビル1F Tel.044-872-7375
水谷珈琲 中原区木月1-32-16 1F Tel.044-577-4288
フルッチョ 中原区木月1-35-1 Tel.044-433-3338
リップル 中原区木月3-10-20 Tel.044-863-6554
MUI (旧もとえ珈琲) 中原区木月3-13-2 Tel.044-767-1368
オステリア ボッカーノ 中原区木月3-17-16 新井ビルB1F Tel.044-411-1003
ABCカイロプラクティック 中原区木月3-20-16 柳沢ビル1F Tel.044-434-4342
島倉 学ミュージックスクール 中原区木月3-35-1ART FLATS B1F Tel.044-567-5490
マンマチャオ元住吉店 中原区井田中ノ町4-1 メゾンアッシュTel.0120-027-217
Hair Salon Airs 中原区井田中ノ町5-3 関根ビル1F Tel.044-755-0273
井田名倉堂・栗山接骨院 中原区井田中ノ町6-27 Tel.044-766-0850
波照間 中原区井田中ノ町8-1 Tel.044-797-5692
アルケファクトリー 中原区井田中ノ町8-43 Tel.090-4362-5413
フォレストコーヒー 中原区井田中ノ町33-1 Tel.044-754-1156
つどとけいてん 中原区井田中ノ町33-2 Tel.044-766-6022

みずたま介護ステーション元住吉 中原区木月2-2-3 メゾンミール元住吉 Tel.044-430-6963
金子園 中原区木月2-2-36 Tel.044-411-5877
和式整体&整心の「響氣」 中原区木月2-3-35 住吉名店センター401 Tel.044-433-2880
ツグイ 中原区木月2-8-5MKビル1-B Tel.044-431-0027
凸と凹と 中原区木月2-10-3
綱島街道薬局 中原区木月2-16-10 Tel.044-750-0374
粋い仙ん 中原区木月2-20-47 Tel.044-411-8980
自在屋 中原区木月4-10-6 Tel.044-433-5644
ステーキグラム元住吉店 中原区木月住吉町7-7 Tel.044-433-4129
cafe OrangeBlue 中原区木月住吉町7-48-101
ENEOSダイヤ商事 中原区木月住吉町21-1 Tel.044-411-5863

シンフォニー 川崎市幸区矢上11-1 Tel.044-599-3499

Cafe TEMO(テモ) 中原区上小田中6-1-5 Tel.044-755-8234
Coffee Spot Life(ライフ) 中原区上小田中6-22-13 Tel.044-722-0024
Tea House ローズマリー 中原区小杉町3-70-4 ホーユウパレス1F Tel.044-733-1076

駒沢通り薬局 東京都目黒区中央町2-40-8 Tel.03-6412-7318
PHOTO SHOP 銀嶺 東京都港区六本木7-8-4 Tel.03-3408-5406
Public House ぴあにしも 川崎市小川町16-15ヒロサワビル103号Tel. 044-201-1668
オレンジ薬局川和町店 横浜市都筑区川和町1218-1F Tel.045-929-1005
カンファ-ツリー 横浜市中区海岸通1-1横浜貿易協会ビルTel.045-211-2200
マシュマロ 横浜市中区山下町214 巴里堂ビル2F Tel.090-2202-3294

M MAGAZINE LINE 発行人 塚田親一 スタッフ 浅井晴香 発行音楽好きな友の会 〒211-0025 中原区木月1-35-1フルッチョビル1F TEL 090-9398-2889 2019-2-16-800 Printnrgk

M MAGAZINE

●Motsumiyoshi●Music●Mate●Meet●Memories

3月3日(日)13:30~
音友会レコード倶楽部
Light Music (軽音楽ファンの集い)
元住吉駅側音友ハウス

3月17日(日)13:30~
音友会レコード倶楽部
Jazz Date (ジャズファンの集い)
元住吉駅側音友ハウス

3月17日(日)19:00~
浅井晴香
アコースティック・ライブ
元住吉駅側音友ハウス

3月19日(火)12:10~
ランチタイム・
ロビーコンサート
川崎生涯学習プラザ

Kent Makino

牧野憲人(マキノケント):静岡市出身のシンガーソングライター。音楽ユニット「くら座」のボーカル&ギターとして活動。15歳の頃に音楽を始める。2011年、静岡市成人式にて3500人の新成人の前でライブを行ったことを機に本格的な活動を開始。現在、地元では静岡市駿河区の公式キャラ「トロベ」テーマソングを担当。2016年に「くら座」を結成し、同秋より元住吉にて企画ライブを主催。商店街公式キャラ「いだるん」テーマソングを担当。現在は元住吉駅前の音友ハウスにて、定期的ライブを開催中。

Photo: Yoshiro Yasuda

連載03 akkobird's JAZZ-4-U 高橋明子

春がやってきました。

3月は出会いと別れのシーズン。花粉症の方にとってははんどいシーズン。"年度末"という言葉にいろいろな思いがよぎるシーズン...。日本にいると、3月は「一区切り」な時期ですね。私も何か「一区切り」なことと言えば、思い出話になり恐縮ですが、ロックボーカルからジャズボーカルに切り替わった時です。

「歌うこと」を意識し始めたのは中学生くらいの頃からで、その時はパッション大事!HR/HM、という表記が正しいのかわかりませんが、ハードロック・ヘビメタが大好きな女子でした。特にイギリスのブルースロックの流れがとても好きで、70年代はレッドツェペリンのロバート・プラント、FREEのポール・ロジャース、80年代はその流れからWHITE SNAKEのデビッド・カヴァデー(むむ?長髪男好き!はい、そうでした。)、70年代&80年代ともにアメリカのエアロスミスのようなヘヴィ・ロック、というのでしょうか、重低音ゴリゴリサウンドにシャウト!大好きでした。でも、一番の影響を受けたのはPRINCEです。これ以上、好きなアーティスト挙げると大変なことになるのでこの辺にしておきます。

その私がなぜジャズボーカルに、...というには、まだその間に「間(あいだ)」があって、大学でアメリカ黒人女性文学を専攻した時に、同時にR&B、SOULにも目覚めました。それとは対照的に1920年代のグレートギャッツビー時代、世界大恐慌(1930's)、アメリカのショービジネス(タップダンスの歴史、ミュージカルの歴史、ブラス、振付師フォッシーの作品の歴

史等)もいろいろ学びました。それと同時に、時代の流れと共に、いつもジャズが流れていました。でも、若い時は血の気も多い?ロックが大好きになってロックボーカルに。いろいろな時間を経て、ロックはちょっとお休みして...じゃ、いざ、ジャズを歌おうとしたのですが、まあ...しっくりいきませんでした。あたりまえ、でした。感覚的にロックバンドでシャウトばかりしていたし、全音符で伸ばすところなんて、「アアアアアアアア〜!!」とこぼしたか、チリメン唱法だか、わかりませんが、ストレートで歌うなんて、カッコ悪い!と思っていたのですから。しかも、R&B、私の場合、アレサ・フランクリンやグラディス・ナイト等、60年代のアメリカ南部のコテコテのブラックミュージックをこよなく愛してたので、なんか、コッテリしたクセがついてしまう、時に説法のような量こもよるような濃い表現になってしまいがちでした。

でも、スティービー・ワンダーはどうだ?(...つまらない駄洒落!?でごめんさい)彼のルーツは黒人だけど、声の伸び、こぼし等をとっぴらった、ストレートな歌い方にとっても影響を受けました。そこからスティービーが作って行く彼の「POPS」にまたまた魅かれていったのですが、そもそも、じゃ、「歌」ってなんだ?と考えた時、私が歩んできた階段を途中で改築してくれたのが、私の歌の恩師でした。「なんのために君はうたうのか?」というストレートな恩師からの問いに、私は大きなミッションを感じたのでした。その後、その言葉に対する答が私ののちの人生の大きな「テーマ」になりました。

今までの、自分の憧れのアーティスト

たちのテクニック、表現することができるようになって満足していた自分を卒業して、「自分はどう歌うのか?」「自分ならどう歌うのか?」という本当の自分を表現する、そして、それを多くの人たちとシェアできるのが「スタンダード(ジャズ)」。今までの自分を捨てて、ストレートに歌う大切さ、コードやメロディの流れ、英語で知られている歌詞をメロディにのせて、リズムにのせてどう伝えるか、それが英語が母国語でない人たちにどうやって伝えよう、...等...。いろいろな方向から研究しながら、ボーカリスト、更に「STORY TELLER」としての道を歩むことになりました。その恩師と出会ったのが1997年。それから...21世紀に入って今は2019年...20年過ぎてますが、ずっと追求してます。あのマネっことして楽しんでた頃よりもずっと、この「Story Teller」としての追求年数が長くなりました。日本風に言うと、苦節なんちゃら〜、なんて言葉ありますが、全くそんな感じではなくて、とにかく、いろんな出会い、学びが「めっちゃ楽しい!!」。楽しく成長してきた20年でした。そして、もし、今の私の歌を気に入ってくださる方がいたら、それは、私が出会った人たちの経験、思い出のおかげです。

別に私一人の努力だー、根性だー、とかじゃないです。出会いの数が多いほど、どんどん自分の歌が豊かになっていくような、そんな感じです。今回は、私の「○○みたい〜」という歌い方を卒業したら、私の歌の人生を明るく照らしてくれた素晴らしい出会いがあった、というお話でした♪ みなさんも素敵な出会い、楽しんでくださいな♪ akko

川崎市国際交流センター

2018地球市民講座
フードバンク活動の現状とこれから
2019年3月9日(土) 13:00~15:30
※オープニングとして、台湾 宜蘭県立頭城中学校 國樂部の民族楽器の演奏があります。

多文化映画会
「さとにきたらええやん」
2019年3月16日(土) 14:00~16:30
※上映後、監督のトークがあります。

川崎市生涯学習プラザ 1階ロビー

第75回 ランチタイム・ロビーコンサート
3月19日(火) 12:00開場/12:10開演/12:40終演予定/料金:無料
どなたでも気軽に音楽を楽しめるアットホームなコンサート

【出演】Aqua Poms(フルート)
【プロフィール】私達"Aqua Poms"はふだん川崎市消防音楽隊カラーガード隊として仕事をするかたわら、フルートの魅力あふれる響きをお伝えしたいという思いで結成されました。関東を中心に訪問演奏やロビーコンサート出演など積極的に活動中。



音友ハウス 元住吉駅西口徒歩1分、フルッチョ2F

元住吉の気軽な音楽会・街角投げ銭ライブ
浅井晴香アコースティック・ライブ
3月17日(日) 19:00~21:00(18:30開場)
浅井晴香(ヴォーカル)
永瀬 晋(ギター)
松本泰夫(ベース&ヴォーカル)



Music Enjoy Club
音楽好きな友の会
http://ontomo.jp/
「音友会」の活動拠点は元住吉駅西口徒歩1分、フルッチョ「フルッチョ」2F。
090-9398-2889 (担当:塚田)

Motsumiyoshi Music Festival
The 1st 2019.4.12 Fri.
Kawasaki International Center Hall
4月12日(金) 川崎市国際交流センター・ホール
第1回元住吉ミュージック・フェスティバル
開催予定!!
総勢10組28名のミュージシャンが集結!!
元住吉から 音楽を楽しむ新しい波が起きる!!!

連載30 私とジャズ 松波陽介

「歌詞はリスナーのものだ」ブライアン・メイ

最近「平成最後の～」ということを目にしますね、今月も平成最後の2月、ということで少しジャズとは離れてしまいが、ご容赦ください。

最近ようやく各界各所で絶賛されている映画『ボヘミアン・ラプソディー』を鑑賞してきました。もう様々なところで、感動した、素晴らしい、等々のコメントは至る所で目にするので(悪意は全くないです、悪しからず)今回は少し違った切り口で感想をという感じで。新しい音楽と出会う、というのは様々な形で私たちの日常でありうるのだと思います。例えば友だち、恋人、はたまた街中で流れるBGM、果ての果ては居酒屋のBGM(最近ではなんだか小粋なジャズが流れている居酒屋も増えてきましたね。)とありとあらゆる場所での音楽に触れる曲は、と自負するくらいに思っていました。(当時多分中学生だったかと思えます。)ですが今回映画を観るまでは知らなかった、楽曲の裏にあったエピソードに触れて改めて彼らの楽曲を聴いていくと今まで気付かなかった新たな発見がたくさんありました。と同時に、このような思いがあったのかなと制作の意図を

考えさせられました。

映画の中盤でバンドメンバーであるブライアン・メイによる言葉が自分には印象的であったと思いました。それは「歌詞はリスナーのものだ」という言葉です。(すみません、一部ネタバレしてしまいます…)楽曲の意図、歌詞の意味は自分たち(作詞、作曲家)が伝えたところで、何の意味がない、ということ。なにか作品に余白的なものを残す、ということかということを感じました。もはや音楽の幅を超えて絵画等で感じるような音楽からは少し離れた芸術的な印象を受けました。(当然の事ながら、音楽も芸術の一つなのですが、というも、音楽は時間的、空間的、刹那的部分を多くが占めていると思うので、演奏を聴いたあとにいろいろと考えさせるような楽曲が多くあるという意味においてです。)かの有名な(今更言うまでもないですが…)ジャストランベッターのマイルス・デイビスのある曲のタイトルにも「Call it anything」という曲があるのですがまさに同じ感性なのかな、ということを感じました。つまり自分たちは表現するが、そこから何を考えるかは自由だ、ということではないかということ。一見かなり身勝手なように聞こえますが、これは本当に芸術の行き着く先なのかなと思います。

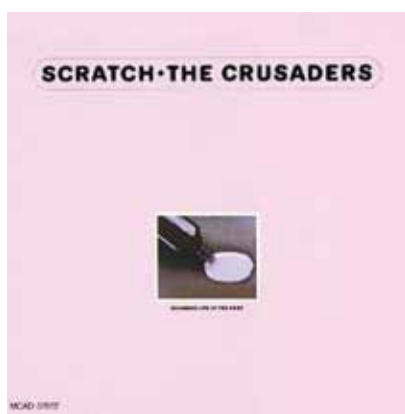
とまあ、いろいろな憶測、推測があったりしますが、自分自身もこんな記事ではありますが、なにか皆さんの思考のヒントになるようなものということを常に考えながら今後も精進していきたいと思う今日この頃であります。



連載27 4ビートに首ったけ

色褪せない名演奏! フュージョンのライブを聴いてみましょう。

地元マスターのジャズ談話
BIANCA店主 長谷部 徹



▲①Scratch / Crusaders

1970年代後半から80年代にかけて、毎日音楽を浴びるように聴いていました。きつと、今よりも時間と好奇心がたっぷりあったのですね。音楽界も華やかな時代で、私が良く聴いていたのはウエストコーストロック、AOR、日本のシティ・ポップなどです。そしてジャズ分野ではフュージョンが全盛期でした。新鮮な響きがあって、夢になって聴いたものです。そんな中から、今回は大好きなライブ盤を2枚ご紹介いたします。

まず1枚目にご紹介するのは1974年、ロスアンゼルスで録音されたクルセイダースの「SCRATCH」(写真①)です。クルセイダースと言えば「STREET LIFE」がお馴染みですが、この頃もカッコイイです。特にこのライブ盤は彼らの良さが凝縮されているように感じます。クールで洗練されたオシャレな音と、アメリカ南部を彷彿させる泥臭さ、リラックスしたレイドバック感、そんなものが混然一体となって詰まっている。特に素晴らしいのが観客との一体感です。ライブってプレイヤーとオーディエンスと一緒に作るものなんですね。ライブの楽しさって何だろう?その答えが、そう、ここにあります。1曲目「Scratch」はミディアムテンポで重量感のあるグループが音の底から湧き出てくるような音です。そして4曲目、多分クルセイダース好きな人全員が愛してやまない1曲、キャロル・キングの「So Far Away」です。この曲、アレンジも洒落ているのですが、圧巻はウエイン・ヘンダーソン(tb)とウイルトン・フルダー(ts)のユニゾンでの1分3秒にも及ぶ超ロングトーン!30秒過ぎたあたりから会場がざわめき始めて、終盤には「STOP!」との声もかかります。更に、終わった瞬間からのラリー・カールトン(g)のソロがカッコいい!盛り

上がりは最高に達し、まさに会場全体が一体となっています。この1曲、鳥肌ものです。そして5曲目「Way Back Home」の前にメンバー紹介があるのですが、それが良いんですよ。実に愛に満ちている。仲が良いのかな?親密感と信頼感が伝わってくるようなメンバー紹介です。この夜、この会場にいた人にとっては一生忘れられないライブになったんじゃないでしょうか。アルバムを通してその素晴らしさが伝わってきます。

さて、2枚目は1979年のライブツアーでの録音(1部スタジオ録音もあります。)、ウエザー・リポートの「8:30」(写真②)です。クルセイダースは和気あいあいと音楽を心の底から楽しんでいる仲間達で感じなのですが、このウエザー・リポートは一癖も二癖もある灰汁の強い連中が集まって化学反応を起こしたバンドって感じですかね。ジョー・ザビヌル(key)とウエイン・ショーター(ts.)を中心に、この時期は天才ベーシストジャコ・パストリアスとピーター・アースキン(dr)が在籍しています。全員が卓越した才能を持っていて、誰にも似ていない唯一無二の音なのに、ポップ性もある。そんなバンドはなかなか無いですよ。1曲目「Black market」からぶっ飛びますよ。スピード感のあるドラムから始まり、圧倒的な音圧のベースが続き、それにオリエンタルなムードの不思議なキーボードが重なります。その後はまるでページをめくる様に曲が展開していき、9分を超える曲で、息をつく間もなく終わってしまいます。6曲目「Birdland」は外せませんね。キャッチーなメロディなのに誰にも愛される、ウエザー・リポートを代表する1曲ですね。まるでメンバー紹介のように各楽器が程よく目立っていて、終わった瞬間の会場の盛り上がりは最高潮!コキゲンなナンバーです。余談ですが、コーラスグループのマンハッタン・トランスファアがこの曲をカバーしていて、それも抜群にイカしていますので、合わせて聴いてみてください。どちらも40年位前のライブなのに、改めて聴いてみて輝きは変わりません。本当に良い演奏や曲は何年経っても色褪せないものなのですね。



▲②Weather Report / 8:30

Jazz & Light Music

音友レコード倶楽部Report ONTOMO MUSIC RECORD CLUB ACTIVITY REPORT

音友会Report 2019年1月音友会の報告



音楽好きな友の会
http://ontomo.jp/

Light Music 今回はブラジルの風、アジマス。

軽音楽ファンの集い

この日は新年明けで本格的な冬に突入し寒い季節となりました。年始め軽音楽の集いは幅広いジャンルで多数の参加があり先月のJazz Date同様大盛況でした。

特集として紹介したグループはブラジルのフュージョン・グループ「アジマス」です。

現在までに22枚ほどのアルバムを発表していますが、その中でもアメリカにおけるデビュー盤で、昔、毎夜午後11時より放送していたNHK-FM番組「クロスオーバーレブ」のオープニング・テーマであった「フライ・オーバー・ザ・ホリゾン」を含む「Light As A Feather」(写真①)A面全曲を聴きました。キーボード担当のホセ・ロベルト・ベルトラミが弾く心地よいエレピーのメロディ部分とアレックス・マレイロスのベース及びイヴァン・コンチのドラムが奏でる力強く絶妙なリズムが絡み、ブラジル特有のサウンドを醸し出しています。グループは1960年代後半に結成され、一時期中心人物であるホセ・ベルトラミが脱退したこともありましたが、その後オリジナル・メンバーとして

復帰。2012年に中心人物であるホセ・ベルトラミが亡くなるまでグループは継続されました。2011年6月に「ブルーノート東京」において来日公演を行い、私も拝見しましたが、まさかその1年後に彼が亡くなるとは思ってもやらず、当時大変ショックでした。現在、アジマスはキーボードに新たなメンバーを迎え再起動しています。それ以外には今まさに旬な現代ビッグバンドの1つであるゴードン・グッドウイン率いるビッグ・ファット・バンドの「Act Your Age」(写真②)、ニーナ・シモンがポップスをゴスペル風に歌った「Here Comes The Sun」(写真③)、レス・ポールが自作の曲をセルフ・リメイクした「Les Paul Now!」(写真④)、アービー・グリーン率いるルビー・ブラフを含むオクトットの「Urbie Green Septet & Octet」(写真⑤)等、大変興味深いアルバムを数多く聴けて充実した日を過ごせました。また、終了後特集でかけたアジマス及びビッグ・ファット・バンドに関する反響が大きく、私もDJ冥利に尽きると思った次第です。(フレドリック・ジョーンズ記)



▲①Light As A Feather / Azymuth



▲②Act Your Age / Gordon Goodwin's Big Phat Band



▲③Here Comes The Sun / Nina Simone



▲④Les Paul Now! / Les Paul



▲⑤Urbie Green Septet & Octet / Urbie Green

Jazz Date 低音楽器の魅力第2弾J.J.ジョンソン

ジャズファンの集い

比較的暖かい大寒の日に開催されたJazz DateはDJ担当者の都合でDJタイムから始まりました。昨年の9月に紹介した「ジェリー・マリガン」に引き続き、低音楽器という事でトロンボーンの大家である「J.J.ジョンソン」を取り上げていました。私自身、学生時代にトロンボーンを演奏していましたが、この人のアドリブの凄さは目にはみはるものがあります。あたくもバンプで吹いているような速さで、しかもビバップで鍛えられたソロはトロンボーン界では唯一のもの。今回はカイ・ウィンディングと結成した2トロンボーン・チーム「J&K」後に結成し、50年代後半から60年代にかけて率いたレギュラー・クインテット(テナー&フルートのポビー・ジャスパー、ピアノのトミー・フラナガン、ベースのウィルバー・リトル、ドラムスのエルヴィン・ジョーンズ)の他J.J.ジョンソンの最盛期と思われる1957年に発表されたアルバム6枚よりスタンダード曲を中心に聴いていきました。レギュラー・クインテットではありませんが、「Blue Trombone」(写真①)「What's New」のミュートを使ったトロンボーン・ソロはゆったりとし、味わい深いものでした。

また、それ以外にもスタン・ゲッツ「Stan Getz & J.J. Johnson At The Opera House」(写真②)やソ

ニー・ロリンズ「Sonny Rollins Volume 2」(写真③)との共演等がこの時期に発表されており、本当に充実した時期だった事が伺えます。その後の持ち寄りタイムにおいては9名の参加がありましたが、DJタイムと共通する点がいっつかありました。1つ目はジャズ・トロンボーンにおいてJ.J.ジョンソンの牙城は崩せなかったものの、二大巨頭の一を担うカーティス・フラーの紹介があった事です。1959年録音の名盤「Blues ette」(写真④)とベース以外が同メンバーで34年後の1993年に再会した夢のセッションアルバム「Blues ette Part II」(写真⑤)を持ち寄られ、新旧の聴き比べができたことは思わぬ喜びでした。2つ目はDJタイムの6枚のアルバムの半数で演奏していたベシスト、ポール・チェンバースが没後50年ということで持ち寄られた方がいた事です。DJタイムの音源はすべて1957年の録音でしたが、ポール・チェンバース自身も1957年は自己最高の61枚という超人的レコーディング・ペースだったようです。おかげさまで「Bass on Top」(写真⑥)からの演奏を含め、1957年録音の得意なアルコ(弓弾き)が3曲も楽しめたことは有意義でした。(フレドリック・ジョーンズ記)



▲①Blue Trombone / J.J. Johnson



▲②Stan Getz & J.J. Johnson / At The Opera House



▲③Sonny Rollins Volume 2 / Sonny Rollins



▲④Blues ette Part II / Curtis Fuller



▲⑤Bass on Top / Paul Chambers

Essay 「くじら座」日記 牧野ケント

タイムマシン

子どもの頃に読んだ本で、当時の僕に衝撃を与えた言葉がある。

「もしタイムマシンができて、決して過去には戻れない。なぜなら、過去にタイムマシンは存在しないから」

第二図書室の左奥、一番窓側のいつもの席に座りながら、僕の時間は止まっていた。窓から差し込む夕陽が冷たく瞬きをすると、鳥の群れが西の空に消える様が見えた。時間は進んでいる。タイムマシンじゃない、この本が僕の時間を止めていた。

それから十数年が経ち、僕は今、超越の荷作りをしている。生まれ育った街を旅立つ時が来た。感慨に耽っていると、不意にタンスの奥に埃にまみれた一枚のCDを見つけた。それは、音楽を始めたばかりの青二才が「バンド合宿」と名付けた日のものだった。聴くに耐えない音源でも、音楽はそこにありのままの姿を残してくれる。僕は、タイム

マシンができて過去には戻れないと信じてきた。でも、それは違った。

タイムマシンはもう、発明されている。それぞれの心の中で完成している。音楽を聴いたり、写真を観たりすると、僕は少しだけ時間の旅ができる。楽しかったな、悲しかったな。物理的に移動することだけがタイムトラベルじゃない。心が時間を旅することも、タイムトラベルだ。今はまだ乗り心地が悪くても、スイッチを押す勇気が出なくても、タイムマシンは、今日まで生き抜いてきた誰の心にもある。

ふと、オレンジ色に反射するCDケースを見て、もうこんな時間だと我に帰る。カーテンを閉めようと窓の前に立つと、夕陽が優しく瞬きをした。臉の裏に熱いものを感じて、僕はいつかの本の言葉より、僕自身の心の言葉を信じてゆこうと思った。

Course Addicted to Guitar-11 永瀬 晋

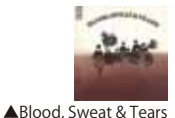
セッションで役立つブルース伴奏 KEY in E

な雰囲気味わえると思いますので、是非チェックしてみてください。次回以降はまた別のパターンも紹介していきたいと思います。

今月もソウリーヴ・ミュージック・スクール永瀬がお送りいたします。今回はブルース進行でソロギターを弾くエクササイズを紹介させていただきましたが、ブルースの楽しみはもう一つ「セッション」です。簡単に説明しますと「リードパート」「リズムパート」を分けて一緒に演奏するという形態で、さらに曲の中で「リードパート」「リズムパート」を交代していきます。内容はアドリブ、インプロヴィゼーションと呼ぶ即興演奏が主になります。そして楽器は何でもOKで、人数も何人でもOK。もちろんギター2人というのもよくある編成で、最低2人いれば成り立ちます。さて、ブルース進行における良くある伴奏パターンを紹介です。かなりポジションはパターン化していますので、結構覚えやすいと思います。一小節だけでも弾いていただくと、アメリカン



3月3日の Light Music 軽音楽ファンの集い



▲Blood, Sweat & Tears

●3月3日(日) 13時30分〜「Light Music」(軽音楽ファンの集い) ブラッド・スウェット・アンド・ティアーズ

プラス・ロックの雄「ブラッド・スウェット・アンド・ティアーズ」、D.C.トーマスに在籍時の最盛期である2枚目、3枚目より数曲をピックアップして聴いていきます。

3月17日の Jazz Date ジャズファンの集い



▲Edward Kennedy "Duke" Ellington

●3月17日 13時30分〜「Jazz Date」(ジャズファンの集い) デューク・エリントンの世界

2019年はデューク・エリントンの生誕120周年にあたります。生涯に作曲した曲は2,000を超えるといわれますが、今回はお馴染みのナンバーをエリントン楽団はもとより様々なアーティストの演奏で聴いてみましょう!



ソウリーヴ・ミュージック・スクール
Souleave Music School
http://souleave-music.com/

元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分
チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992
AM8:00/PM22:00start